

魯迅先生逝世 84 周年碑前祭行う！

— 明 2021 年は碑建立 60 周年 —

秋天の 10 月 19 日、仙台市博物館横の「魯迅之碑」前で、碑前祭が行われ富谷市日中からの 3 名を含む約 50 名が参加しました。仙台市・高橋副市長(郡市長代理)、県協会・佐々木会長、学友会・劉会長、県経済商工観光部・本郷参与から挨拶があった後、献花が行われました。佐々木会長からは「明年は碑建立 60 周年に当たるので、意義を留める行事を検討していきたい」と話がありました。



代表 3 名による献花

10月、全国協会が設立70周年迎える！

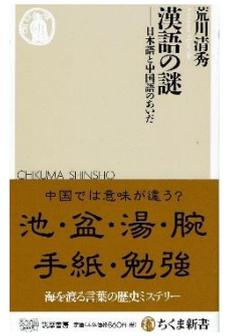
現在の(公益社団法人)日本中国友好協会の歴史は、1949年10月1日の中華人民共和国成立を受け、戦後の反省の上から、日中間の国交正常化を目指して民間組織として同月10日には準備会がスタート。1950年2月に機関紙『日本と中国』が創刊され、同年10月1日に新中国成立1周年を記念して結成大会を開催し、初代理事長に内山完造氏が選ばれた。全国組織としての準備も整い、1953年の第3回大会で初代会長に松本治一郎氏が就任した。1966年には非友好分子として日本共産党指導下の一部会員を排除し、日中友好協会(正統)として、現在に至っており、宮城県日中友好協会も所属している。

恒例の中国語スピーチコンテスト(東北大会)開催！

10月25日、コロナ禍の中、審査員等関係者のみ参加で開催。各地から高校生から最高齢91歳まで17名が参加し朗読とスピーチの部で全国大会出場を目指しました。

『漢語の謎』-日本語と中国語のあいだ (荒川清秀著 ちくま新書 946円)

NHK中国語講座の講師でもあった著者は「日中同形語」の権威でもあった。「手紙」はトイレットペーパー、「湯」はスープという、楽しい話だけで終わらず日本語と中国語の言葉の歴史や相互への影響等、学術的な謎にまで踏み込んでいるので、難しくもあり、楽しい謎解きでもある。日中間及びヨーロッパとの文化交流の影響が漢字一つにも表れている事に不思議さを感じた。さて“熱帯”の謎は？



shu ben

私の友好記憶 「素晴らしき中国へ初訪問」千葉 秀輝

若い頃から中国の歴史に“ドハマリ”していた私が、初めて中国大陸を踏み締めたのは1991年8月のこと。創価学会青年部の「中国青年平和交流団」の一員として、全国からの約200名の青年たちと共に1週間の交流に参加できたのでした。北京空港で中日友好協会に盛大な歓迎を受け、バスに乗ると前後にパトカーが護衛につき、赤信号をどんどん無視して走行。そしていきなり人民大会堂での歓迎宴。乾杯してまもなく、北京ダックをロー杯に入れたところに「ビール、どうぞ」と日本語で話しかけてきたのが、何と孫平化・中日友好協会会長！北京ダックがロー杯の私は「うご、うご、」とうなりながら挨拶し、本当に失礼な事をしてしまいました。

北京では朝の圧倒的な自転車通勤の人々に驚き、また万里の長城や紫禁城(故宮)、明の十三陵等の歴史建造物に大興奮したのを思い出します。上海では青年交流会の席で、青年書道家の陳先生と親しくなり、お願いして『風蕭蕭兮易水寒 壯士一去兮不復還』(風蕭蕭として易水寒し。壯士ひとたび去ってまた還らず=秦の始皇帝にただ一人挑んだ荊軻の詩)を快くしたためていただきました。表具して我が家の家宝にしています。この交流旅では何よりも歓迎宴、答礼宴での素晴らしい方々(本当に偉い方々)との出会いでした。現中日友好協会副会長の王秀雲氏からは「今度中国に来たら協会の事務所に遊びに来てください。ごちそうしますよ」と声を掛けていただき、復旦大学の蘇歩青・元学長のご子息の蘇徳昌教授からは、堪能な日本語で「中日友好の為に、勉強しなさい！」との激励もいただきました。今改めて思い出し、コロナ禍の中、中国語を勉強中です！「我会尽力的日中友誼！」



写真上の㊦端が孫平化会長 ㊦端が筆者 写真下の㊦が書道家・陳先生

